

〔書〕言字考節用集〔二時〕**亥** 猪初冬其月建亥以亥日亥刻食
豕 或云亥能生多子故婦人美之至三政事要略四季物語同
〔書〕言字考節用集〔二時〕**亥** 猪餅無病見太平御覽○中略供餅祀神矣詳政事要略四季物語同
亥 猪餅無病見太平御覽○中略供餅祀神矣詳政事要略四季物語同

〔二中歷歲時〕節日由緒

十月亥子群思隆集云十月亥日作餅食之令人無病也

〔源氏物語〕
癸九その夜さりゐのこのもちひまゐらせたり

〔古今要覽稿歲時〕釋名 亥日餅年中行

亥子餅同上 御嚴重二水記兩朝時令云三條右大臣實修江戸參向ノ時羅山子道春ニ談セラ

レテ云亥子餅イツクシクカサヌル故ニ嚴重ト稱ス嚴ノ字イツクシト訓ゼリシカルニ亥ノ日タルニヨツテ玄猪ト云獻猪ト云ナラハスハ無根ノ傳記ナリ弘賢曰御ゆどノい上の記に
けん法やうと書たるはか豚之嚴重宣胤げんでう年中行事 御嚴重江戸参向ノ時羅山子道春ニ談セラ

弘賢曰女房私記にけんしよお玄猪雅筵醉狂集云俗にお玄猪同上 包たる物の名にはあらず、いづよりか誤てあかり又室町内々にて獻上あり仍て御嚴重どもいふ其外説々あり御亥子殿申中申 御亥子次記申 御源猪年中定例記

御まいり切宣胤御事始記成氏年中行事 御成切御事始記云御なりきり共申又御嚴重とも異名なるべし喰さしを賜はるよしは後水尾院年中行事に御いきをかけらるいとみえたるも其意なるべし年中定例記にはそもそも御口にあてられてまいらせらね候をかけらるいとみえたる

りおなれぎり大友興廢記おなり

〔日本歲時記十月〕初の亥日饅を製して食ふ事ありおほやけにも上の亥の日、内藏寮より御亥猪御亥猪を奉るあさがれるにてきこしめす御亥猪は亥子餅の名なり委き事は公事根源節供記要略などにみへたり 公事なる故略之又亥子の饅七種の粉を合て作る七種の粉とは大豆小豆大角豆胡麻栗柿糖なりと掌中曆に見えたりかゝる事を下にうけて此日民間にいたるまで饅を製してくらふ此事いつの比よりはじまるとも見えず延喜式にのせたれば往古より有し事とみへたり承安四年沙汰ありて大外記頼重師尙など勘文をまいらすそれも本朝のおこりをばたしかに申さずみな本書本記をのせたりかかるに歌林四季物語には但馬の國よりはじめていのこのもちゐたてまつりし事國